

台湾留学での活動

1 日目は台風と航空機の整備点検で香川県に泊まりました。台風での遅延は考慮されませんが、最終理由が航空機の整備点検だったため宿泊費と食費 1500 円分はチャイナエアラインさんが出してくれました。しかし、事後精算だったため所持金が 1 万円減ってしまったことが痛手でした。次の日の 11 時の飛行機に乗ることができました。

2 日目は 11 時にようやく飛行機に乗ることができ 14 時くらいに台湾に着きました。台湾空港に着くと現地の学生「ルルさん」が迎えに来てくれていました。しかし、預け荷物の受取がなかなかできずルルさんを 1 時間ほど待たせてしまいました。ルルさんと合流した後は、台中市に向かいました。台北空港からはバスに乗り、2 時間ほどバスに揺られたところで「紅葉谷」という台中市の真ん中のバス停で路線バスに乗り換えました。そこから 30 分ほどバスに乗ったところに弘光科技大学と寮がありました。その寮に荷物を置いた後に、るるさんが夜市に連れて行ってくれました。台湾ではじめてのご飯でした。ご飯はリゾットを食べ、デザートにマンゴーかき氷を食べさせてくれました。

3 日目はフリーデーでした。なので、現地の学生がプログラムに参加している学生達を連れて Lukang Changchua Taiwan に行きました。古い台湾の町並みとお寺があります。朝市の人混みを避けて清水駅から電車に乗って行きました。電車は基本的に IC カードで乗り降りをします。そこではお寺を周り、市場で台湾の屋台フードを食べました。

4 日目ははじめて大学へ行きました。はじめての授業で、みんなはすでに中国語の授業を受けていたので遅れを取り戻せるのか、輪の中に入れるか不安でした。授業はグループごとに別れて座り、先生が前で中国語の単語や歌などを教えてくれます。その後、その日その日のアクティビティーがあり、歌をグループごとに歌ったり、ダンスをしたりします。このアクティビティーを通して、グループのみんなと話すことができました。お昼は大学が準備をしてくれます。私は vegan だと言っていたので、お昼ご飯は全て vegan でした。

(本当に素晴らしい) 台湾には「素食」という文化があります。素食というのはオリエンタルヴィーガンのことで、動物性食品と五葷を取らない食事のことです。なので、現地の学生は「玉ねぎ、ニンニクは大丈夫??」「これは食べられる?」と聞いてくれます。午後は、みんなで日焼け止めをつくりました。大学にはたくさんの学部があり、その一つが美容系の学部でした。教授が詳しく日焼け止めの効果を英語で説明していただき、その後作り方と成分の説明をしてくれました。その夜には現地の学生と仲良くなった日本人留学生と一緒に静宜夜市に行きました。小さなマーケットでしたが、沢山の屋台が出ていて、ローカルフードを食べることができました。

5 日目は午前中中国語の授業をしました。この時にはもう、みんなと仲良くなっていたので、英語で話しをしていました。午後は、書道の授業でした。書道といっても、水墨画をしました。書道は日本と通じる場所がありますが、台湾の水墨画はとてもカラフルで見えてとても、楽しくなるものでした。

6 日目の午後はパイナップルケーキを作りました。パイナップルケーキは台湾の有名なお菓子です。同じ班でする予定でしたが、なぜか全く話したことのない学生と一緒に作りました。が、みんな優しくてとても楽しく作ることができました。

7 日目の午後はクライミングの授業です。大学の中の体育館にクライミングの施設があり、そこで体を動かしました。クライミングが出来る人数は決まっているので、順番が来るまではバレーボールをしたり、サッカーをしたりしていました。空いた時間には閉会式で披露するダンスの練習をしていました。

8 日目は刺繍の授業でした。和柄の布で小さなポーチを手縫いで作りました。手縫いだったのでなかなか時間がかかっていましたが、どの国の留学生もみんな教えあって作っていました。

9 日目は、校外学習のような感じで、みんなで sun moon lake に行きました。バスで 1 時間くらいのところにあります。まずは、有機栽培の紅茶工房を見学しに行きました。その後湖に行き、クルージングしてお土産やさんで買い物をしたり、昼ごはんを食べたりしました。そこには三蔵法師にゆかりがあるお寺がありました。

10 日目はフリーだったので買い物に出かけました。

11 日目はクロージングセレモニーで、それぞれ練習したダンスを発表し、代表の生徒が挨拶をしました。その夜には台湾の学生がパーティーを開いてくれて、ダンスをしたりご飯を食べたりしました。

12 日目はフリーでした。

13 日目に帰国しました。

1. 台湾留学で学んだこと

こんなに近い国なのに、全く文化も国民性も違いました。特に私は「素食」という文化に興味がありました。台湾にはベジタリアンは身近な存在なんだと感じました。それと同時に、台湾の人は人情味があってとても優しい方が多かったです。常に他人を気にかけていて面倒見が良かったです。なので、日本人の私にとってもとても居心地がいい国でした。

食品は日本と似ているところが多かったけど、違っているところも沢山ありました。日本よりも地域色が強く出ます。ファストフード店も多くありましたが、現地の人はファストフードよりも屋台飯やソウルフードをよく食べている印象がありました。

2. 台湾留学の感想

台湾は初めて行く人でもとても過ごしやすい国だなと思いました。なぜなら、食べ物もとても美味しいし、台湾の人はとても優しいからです。不安なことがあっても、助け舟を出してくれたり、現地の人と通訳してくれたり、vegan のわたしにも食べられるものを紹介してくれたりしてくれました。今回、九份に行けなかったことはとても後悔です。です

が、次九份に行くという目標、楽しみができました。台中、台北などの都市は日本人でも、日本語が通じることが多く、英語でならほとんど会話できます。しかし、屋台などを利用するときは中国語しか通じないので、翻訳機がとても役に立ちました。今となつては、言葉の壁が多少あっても、問題なく海外を訪れることができるという自信になりました。この留学プログラムに参加したことで、自分の可能性が大きく広がったとともに、どんな環境であっても生きていけると言う自信になったので、参加して良かったです！



1) 活動概要

8月7日から8月20日の間に台湾の弘光科技大学で行われた、サマープログラムに参加した。試験日程や天候などの影響により、私たちは8月10日に台湾に到着した。

空港へは一人の女子学生が迎えにきてくれていた。空港で両替や公共交通機関で使えるICカードの購入などを済まし、バスを乗り継いで2時間ほどかけ台中にある学生寮へと向かった。寮の部屋を案内してもらい、荷物を置いて一息つくと、逢甲夜市へ夜ご飯を食べに連れて行ってくれた。多くの人でにぎわうお店、中国語の看板たち、外国に来たなと実感した。おしゃれなレストランに入り、中国語のメニューを初めて見る。漢字だから、なんとなく雰囲気でどんな料理か分かるのではないかと思っていたが、全くわからず、中国語って難しいと思った。その後、台湾スイーツとして人気のマンゴーかき氷を食べに連れて行ってもらった。これが驚くほど美味しかった。これまでの人生で食べた中で一番美味しいマンゴーだと思った。

次の日は日曜のためフリーデーだったが、30人ほどの学生が鹿港老街と天后宮へ行くというので、同行した。この日の朝ほかの学生と初めて会ったが、みんなフレンドリーに話しかけてくれ、遅れて参加して馴染めるだろうか、という緊張感は薄らいだ。鹿港老街は古くに栄えた場所で、古くから残るレンガ造りの邸宅や小道が独特の雰囲気を感じさせるような場所だった。お土産屋さんやちょっとしたゲームが楽しめる出店のようなものが連なっており、食べ歩きや気になったお店にふらっと入るということをしながら観光をした。昼食は全員で海鮮料理のお店に入り、日本人には馴染みの無いローカルフードのようなものを食べた。その後、天后宮という航海の安全を守る神様が祀られているという神社へ向かった。台湾らしいカラフルな色合いで装飾された華やかな建物で、多くの観光客が参拝していた。

次の日から大学へ行った。平日のスケジュールは、朝9時から12時まで教室で中国語を学び、昼食はお弁当を食べ、午後は13時から16時まで日ごとに違うアクティビティをするというものだった。中国語の授業では、挨拶や体の部位の名前を歌って覚えたり、その歌に合わせたダンスをグループで考えて発表したり、果物の名前を使ってゲームをしたり、中国語の歌を歌ったり、自己紹介をしたりして中国語を学んだ。午後のアクティビティでは、日焼け止めを作ったり、うちわに水墨画を書いたり、パイナップルケーキを作ったり、体育館でサッカー、バレーボール、ロッククライミングをしたり、柿のような見た目の小さい巾着袋を手縫いで作ったり、ということをした。台湾の学生を含めた約80人の学生が8グループに分けられ、そのグループで行動を共にする時間が長かった。私のグ

グループには台湾人4人、日本人2人、タイ人、ベトナム人、韓国人がいた。チームメンバーとの思い出はとても濃い。

次の週末、土曜日は全員で日月潭を観光した。台湾で最も大きな湖であり、湖の北側が太陽（日）の形、南側が月の形をしていることからこう呼ばれるそう。船に乗り水上の気持ちいい風を感じたり、お土産屋さんをのぞいたり、食べ歩きをしたりした。また、近くにある、自社農園で栽培されたオーガニック100%の紅茶を販売する「日月老茶廠」という紅茶畑も訪れた。紅茶を作る過程を説明しながら工場内を案内してもらったり、日月老茶廠の歴史やオーガニック100%にこだわる理由などを紹介するムービーを見せてもらったりした。

次の日はまたフリーデーだったので、日本人と台湾人の仲の良い6人で台中を観光した。お土産を買ったり、魯肉飯（ルーローハン）や小籠包を食べたり、宮原眼科という有名なアイスクリーム屋さんへ行ったりした。

次の日、午前中は最後の中国語の授業を受け、午後はクロージングセレモニーが行われた。昼食は大学内のレストランのようなところで豪華な食事をいただいた。クロージングセレモニーでは、グループごとに夜集まって練習してきたダンスを披露し、修了証書の授与を受け、代表者数名がスピーチを行った。その後みんなで写真を撮り合ったり、メッセージを書きあったりした。いったん解散し、夜は台湾の学生が主催の最後の会が行われた。いくつかゲームをし、最後の思い出作りを楽しんだ。台湾の学生一人一人からのメッセージやサマープログラムでの写真をまとめたムービーも用意されており、楽しかった思い出や、みんなと過ごした時間を思い出し、また台湾との別れを惜しみ、涙が止まらなかった。

その後それぞれのフライト時間に合わせてお見送りを繰り返し、私たちも台湾を去った。

2) 研修での学び・気づき

私はこの研修への参加を申し込む際、「海外の大学で現地の学生と交流することの楽しさ、異国の地で現地の人の生活を体験すること、外国人の友達ができること、未熟な英語で自国の文化を教え合うことのおもしろさを、次は台湾で感じたい」と述べた。単に旅行で海外を訪れるのでは経験できない、様々な国の学生との交流に期待を寄せていた。結論から言うと、台湾での経験は期待以上だった。

私がよかったと思ったのは台湾の学生の暖かさと、8か国の学生と交流できたことである。このサマープログラム自体、学生が主体的に準備や運営に携わっていると感じた。だ

から台湾の学生たちはとても親切に自分たちをお世話してくれた。常に寄り添い、コミュニケーションを欠かさず、いろいろなところに連れて行ってくれ、ふざけあったり、日本語と中国語を教えあったりなど、友達としての笑顔が絶えない時間を過ごした。プログラム最終日の後、最初に帰国する学生の出発時間が朝の6時だったのだが、多くの台湾の学生が一睡もせずに夜通し共に過ごし、お見送りをしていた。自分たちが出発する時も、バスに乗る前には泣きながらハグしてくれ、バスが見えなくなるまで手を振り続ける様子を見て、友情を感じた。帰国後も SNS に毎日アップされるプログラム中の写真や、別れる際に繰り返していた「Keep in touch!」の言葉の通り連絡を取り続けていることなど、結びつきの強さを感じた。

国籍でその人の人柄を決めつける気はないが、やはり国民性というものがあると、各国の学生を見ていて考えた。アメリカの学生の底抜けに明るい笑顔は印象的であり、韓国の学生の美意識は高く、タイの学生はみんなから好かれるような親しみやすさを持っており、日本人はやはり周りと比べると消極的であった。しかしすべての授業やアクティビティにまじめに取り組んでおり、反対に韓国の学生は遅刻が目立った。数人で恋愛について話した時には、フィリピンでは女性から告白することができないため、8か月もの間両思いだが交際はしていない関係のままの相手がいる、という女子学生の話聞き、みんな驚いていた。自分の国は〜と話が広がり、各国の恋愛事情を知ることができた。

全員がそれぞれ自分を持っており、個性あふれる 80 人のメンバーだった。このメンバーでサマープログラムが行えて、みんなに出会えて本当によかったと思うくらい、全員良い人だった。チームメンバーも、遅れて参加した私を一瞬で受け入れてくれ、ことあるごとに助けてくれた。感謝している。

楽しかったこと、よい学びがたくさんあったが、そうではない気づきもあった。一度、日本の学生だけで買い物とご飯に行ったことがあった。とても良い気分転換になった。そこで、やはり私にとって言葉の壁というものは小さくはないのだと実感した。相手が言っていることをきちんと理解できたとき、自分の言っていることが相手に伝わったとき、嬉しいと思うと同時に一步前進したような、少し成長したような気持ちになる。しかし上手くコミュニケーションが成り立つことはそう多くなく、いつも十分に気持ちや考えを伝えられないこと、相手の話を理解したふりをして愛想笑いをしていることはストレスだったのだ。まさに言葉の壁を感じてしまった経験だった。コミュニケーション能力とは言葉のみの能力ではないが、やはりその重要性は極めて高く、身に着けるべきものだとして改めて感じた。

3) その他

台湾という場所の良さ、新しい出会いのすばらしさ、国を超えて笑いあうことの楽しさ、会話することの難しさなど、期待していた通りの多くの学びがあった。感じたことを忘れずにいたい、また世界のどこかで友達に会いたい、と思うような充実した日々だった。

4) 研修先の写真



